

平成27年 4月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成 27 年 4 月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいませようお願いいたします。

さて、今年度もスタートしましたが、当東京事務所は、昨年度と同様の体制でまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

来月の連休明けの5月10日(日)には、『第34回八戸うみねこマラソン全国大会』が開催されます。今回のエントリーは、北海道から沖縄まで、計6,375人と過去最大(昨年とは5,342人)です。

ランナーの皆さんには、ゲストランナー山口衛里さんとともに八戸の自然を満喫しながら駆け抜けて欲しいですね！

### 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 4月号 レポート

平成27年3月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

No.	項目
1	八戸市長が表明 「2017年1月1日に中核市移行」
2	八戸市教委が防災副読本「未来につなげる防災ノート」作成
3	老朽化のため「新大橋」架け替え 2016年度着工予定
4	八戸市 津波避難計画を改訂

## 【産業】

No.	項目
5	宅配ロッカー最大手「7ルタイルシステム」八戸市にコールセンター開設
6	八戸港の年間コンテナ取扱量 36%増 6万9千本に
7	南郷区 「ワインの里づくり始動」
8	第3魚市場の荷さばき施設A棟 衛生レベル世界最高対応施設に登録
9	南部バス 運転手育成制度で女性初の免許取得

## 【地域】

No.	項目
10	中心街の六日町と十六日町 電線地中化・歩道拡幅工事本格化へ
11	東日本大震災から4年 芦屋市と「ヒューマンバンド」で冥福祈る
12	鯨・種差地区の「飲食店探訪ガイド」発行
13	八戸農協女性部 「ナガイモジュース（ナガイモ+リンゴ+牛乳）」PR
14	八戸高専 全国初の4学期制導入
15	館鼻岸壁で国内最大規模の朝市開幕
16	八戸駅構内に壁面装飾設置へ ～種差海岸や祭りをPR～
17	「八戸小唄寿司」の吉田屋 新函館北斗駅に新店

## 【文化・スポーツ】

No.	項目
18	「土砂災害防止に関する作文」小学校の部 城北小の上野さんが事務次官賞！
19	八戸せんべい汁おもてなしアカデミー開催 「アスターに38人認定」
20	ネットショップ7大賞 「日本酒ショップ7くるみや」が全国路店賞受賞！
21	16年ぶりに大相撲夏巡業「八戸場所」開催へ
22	富士7イルム7オトコンサート 八戸市の前田利久さんが最高位！
23	日専連全国児童版画コンクール 中居林小の中居林妃奈さんが最高賞！
24	ダネンラーレ八戸 ホーム開幕戦を2-0で勝利！

## 【県内】

No.	項目
25	八戸前沖さば 種類や脂の乗りの選別技術開発へ
26	1人1日当たりのごみ排出量 青森県7コース2位

【行政】

No.	レポート
	<p><b>八戸市長が表明 「2017年1月1日に中核市移行」</b></p> <p>八戸市の小林眞市長は、2017年1月1日に中核市へ移行する方針を明らかにした。今年7月をめぐりに、移譲事務や財政見直し、組織体制などをまとめた移行計画を示す予定。同12月に市議会の議決を経て、総務大臣への指定申し出など、法定手続きを進める見通しである。小林眞市長は中核市移行に向けて、「市民福祉のさらなる向上を図るとともに、八戸圏域の一層の機能強化につながる連携中核都市圏を実現させる」と意欲を述べている。</p>
2	<p><b>八戸市教委が防災副読本「未来につながる防災ノート」作成</b></p> <p>八戸市教育委員会が防災副読本「未来につながる防災ノート」を作成した。成長段階に応じた指導ができるよう、小学校下学年版、小学校上学年版、中学生版の3分冊とした。単なる読み物ではなく、自分の考えや意見、最寄りの避難所や家族の連絡先などを書き込むスペースが多いのが特徴。伊藤博章教育長は「自然災害はいっどこで発生するか分からないので、学校での型通りの避難訓練では自分の命を守るためのノウハウは身につかない。小中学校の9年間で、大人になってからも役立つ防災教育をしたい」と語る。</p>
3	<p><b>老朽化のため「新大橋」架け替え 2016年度着工予定</b></p> <p>八戸市は、馬淵川下流に架かる「新大橋」を老朽化のため新設する方針を明らかにした。大規模修繕案も検討したが、経済性や通行の安全性などを考慮した結果、架け替えが有利との判断になった。車道は50センチ拡幅し、歩道も現在の1メートルから3.5メートルに広げる方針。2015年度に詳細設計を実施し、2016年度に着工する予定で、完成まで10年近くかかる見通しになる。</p>
4	<p><b>八戸市 津波避難計画を改訂</b></p> <p>八戸市は、東日本大震災を受け、2005年に策定した津波避難計画を改訂した。青森県が2012年に公表した津波浸水予想図に対応する避難路や指定避難所などを示し、注意報以上で避難対象地域内に速やかに避難指示を発令することなどを盛り込んだ。避難対象者は大津波警報で約7万9千人、津波警報で約1万人と推計される。避難計画をカラー刷りしたリーフレットを、避難対象地域の約4万戸に配布する。</p>

【産業】

No.	レポート
5	<p><b>宅配ロッカー最大手「フルタイムシステム」 八戸市にコールセンター開設</b></p> <p>マシソン宅配ロッカーを全国展開する業界最大手のフルタイムシステム(東京、原善一郎社長)は、4月に八戸市に進出し、十三日町のヴァリアンビルにコールセンターを開設する。地元雇用は約10人を予定し、1年をめぐりに50人程度にまで増やす考え。「宅配ロッカー」は年間2千カ所ずつ増え、センター業務の拡大が必要になっていた。これまでが首都圏に置いていたが、災害などによるリスク分散の意味もある」と原社長は八戸進出の理由を説明した。</p>
6	<p><b>八戸港の年間コンテナ取扱量 36%増 6万9千本に</b></p> <p>青森県が八戸港八太郎2号埠頭のコンテナヤードを拡張し、年間コンテナ取扱可能量(20フィートコンテナ換算)を、現在の約5万1千本から、約6万9千本へと36%増やす計画となった。近年、八戸港では企業の原材料や商品の輸出入が堅調に推移。コンテナ取扱量が増加傾向にあり、2014年は過去最高の約4万8千本を記録している。</p>

	<p><b>南郷区 ワインの里づくり始動</b></p> <p>八戸市南郷区の「八戸ワイン産業創出プロジェクト」が動きました。3月中旬以降、ワイン醸造用のブドウ苗木の植え付け作業が本格化している。以前は葉タバコ栽培用に貸していた農業中村倉雄さんの圃地では、1メートル弱のブドウの苗木30本を植えた。苗木は赤ワイン用の品種・メルローで、口当たりがよく豊かな香りのワインになるとされる。中村さんは「不安もあるが、自分もお酒が好き。ほかの生産者とも情報交換しながら良いワインになるブドウに育てたい」と期待を膨らませる。</p>
8	<p><b>第3魚市場の荷さばき施設A棟 衛生レベル世界最高対応施設に登録</b></p> <p>八戸港館鼻地区の八戸市第3魚市場荷さばき施設A棟について、青森県が、世界最高の衛生レベルの対EU(欧州連合)輸出基準に対応する施設として登録した。A棟は主に魚を高鮮度に保つ船倉を備えた改革型巻き網漁船が漁獲した生鮮サバの水揚げに対応。水揚げや計量、施氷、箱詰め工程を自動化することで、人の手や外気にさらさず汚染を防ぎ、従来の産地市場にない安全・安心な水産物の供給が可能とする。魚市場の登録は国内初となる。</p>
9	<p><b>南部バス 運転手育成制度で女性初の免許取得</b></p> <p>運転手不足に悩むバス業界だが、八戸市の南部バスは2011年度から独自に免許取得費の一定額を補助する育成制度を設け、人材育成に取り組んでいる。特に力を入れているのが女性のスキルアップで、指導役に女性を起用するなど、働きやすい環境づくりも進めている。今年1月には、運送業界で十数年のキャリアがあった齊藤慶子さんが入社。大型免許を持っていたため、約20日間で2種免許を取得。安全運転教習を終え、先輩ドライバーと共に路上教習を重ねている。4月から路線バスを運転する。</p>

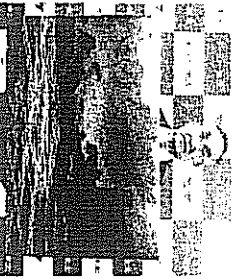
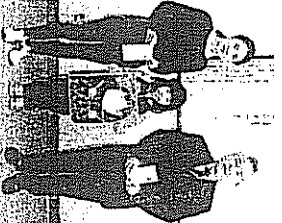
【地域】

No	レポート
	<p><b>中心街の六日町と十六日町 電線地中化・歩道拡幅工事本格化へ</b></p> <p>八戸市中心街の六日町と十六日町の市道「上組町漢線」で、電線地中化の工事が本格化している。歩行者優先の快適な道路空間をつくる「くらしのみちゾーン基本計画」の一環で、六日町、十六日町ともに対象となる歩道の長さは165メートル。現在は片側1.75メートルの歩道の幅を、工事で最大2.5メートルまで拡幅。車道をかさ上げしてパリアフリー化する。5月ごろまでに電線を地中化し、その後、歩道の拡幅工事を行う計画で、八戸三社大祭が開幕する8月までに完成する見通しである。</p>
10	<p><b>東日本大震災から4年 芦屋市と「ヒューマンバンド」で冥福祈る</b></p> <p>東日本大震災から4年となった3月11日、県内で最も被害が大きかった八戸市では、犠牲者の鎮魂や復興を願う行事や防災訓練が各所で行われた。震災が起きた午後2時46分には八戸市と兵庫県芦屋市で同時に、市民らが手をつなぎ犠牲者の冥福を祈る「HUMANBAND(ヒューマンバンド)」が行われ、八戸市では種差海岸天然芝生地に約250人が参加し、強い風雪の中、荒れる海に向かって黙とうした。約840キロ隔てた両市で「震災を忘れない」との思いが一つにつながった。</p>
11	<p><b>種差観光協会と鮫観光協会は、両地区の飲食店を紹介する観光パンフレット「飲食店探訪ガイド」を発行した。駅を起点に徒歩で移動する観光客を想定し、地図とともに、鮫地区14軒、白浜地区3軒、種差地区10軒の食堂や民宿を掲載。お薦めメニューの写真と値段も紹介している。また、ランチだけでなく、「ほろ酔い散策」として、港町ならではの風情ある居酒屋やスナックも特集している。</b></p>

13	<p><b>八戸農協女性部 「ナガイモジュース (ナガイモ+リンゴ+牛乳)」 PR</b></p> <p>八戸農協女性部は、台湾で飲まれているジュースにヒントを得て、地場産のナガイモ、リンゴ、牛乳を使った「ナガイモジュース」をPRしている。ジュースは皮をむいたナガイモと、皮付きのリンゴをすり下ろし、牛乳で溶いたもの。少し粘りけが強く、かみながら飲むという印象だが、癖がなく飲みやすい。弘前大学と県の研究などにより、インフルエンザウイルスの働きを抑える効果が確認されており、県内で広く栽培されているナガイモ・リンゴの健康パワーを発信し、消費拡大につなげたいとしている。</p>
14	<p><b>八戸高専 全国初の4学期制導入</b></p> <p>八戸高専は2015年度から、現在の前期、後期の2学期制に代わり、全国51校の国立高専の中で初となる「4学期制」を導入する。約2カ月ごとの春、夏、秋、冬の各学期と、約7週間の「発展学習」の1期間で構成し、夏季休業と秋学期を合わせた3カ月間を学生が海外留学やボランティア、学外でのプログラムなどに取り組む「探究実行」期間と位置付けた。同校で半世紀以上続いた2学期制からの抜本的改革となり、学生自ら問題を見つけ、解決する力を養う狙いである。</p>
15	<p><b>館鼻岸壁で国内最大規模の朝市開幕</b></p> <p>3月15日、国内最大規模を誇る館鼻岸壁の朝市が開幕した。夜明け前から朝市ファンが続々と岸壁に詰め掛け、思い思いに品定め。会場には威勢の良い客寄せの声や、常連との再会を喜ぶ声飛び交った。寒さのせいかわ初日は出店約250店、来場者約1万5千人と例年に比べ少ないものの、ピークとなるゴールデンウイークやお盆には350店、7万人台まで達する見込みとなる。この朝市は12月までの毎週日曜日に開催される。</p>
16	<p><b>八戸駅構内に壁面装飾設置へ ～種差海岸や祭りをPR～</b></p> <p>八戸市は2015年度、JR八戸駅構内に、種差海岸や祭りなど市の観光をPRする壁面装飾やポートを設置する。装飾は新幹線ホーム1に向かうエスカレーター1に壁面装飾を施し、改札の上部に縦2.5メートル、横6.2メートルのポートを設置。東西自由通路には、縦5メートル、横10メートルの「バナー」を天井からつるす。また、観光に特化したホームページ(HP)も新たに立ち上げ、写真を大きく使い、視覚に訴える内容にし、市内や種差の歩き方も紹介する。HPは2016年3月公開予定。</p>
17	<p><b>「八戸小唄寿司」の吉田屋 新函館北斗駅に出店</b></p> <p>「八戸小唄寿司」の駅弁の製造や販売を手掛ける吉田屋(八戸市)は、来年3月に予定される北海道新幹線開業に合わせて、ターミナルとなる北斗市のJR新函館北斗駅に店舗を出店することを明らかにした。新店では北海道産と青森県産の食材を使い、新たに開発する弁当を販売する。店舗には調理施設を備え、弁当製造のほか、コーヒーなどの提供も行う新業態のカフェスタイルを計画している。</p>

【文化・スポーツ】

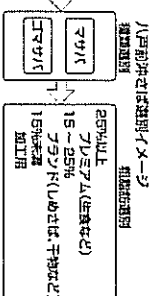
No.	レポート
18	<p><b>「土砂災害防止に関する作文」小学校の部 城北小の上野さんが事務次官賞!</b></p> <p>国土交通省が募集した2014年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」の小学校作文の部で、八戸市立城北小5年の上野夢子さんが最高位に次ぐ国交省事務次官賞に輝いた。作文で上野さんは、昨年9月に八戸市が集中豪雨に見舞われた際、学校で母親の迎えを待ちながら、同年8月に広島市であった土砂災害の被害者らに思いをはせた様子などをつづった。インターネットで青森県内の土砂災害危険区域を調べると、防災、学習意識の高さも評価されたという。</p>

19	<p><b>八戸せんべい汁おもてなしアカデミー開催</b> <b>マイスターに38人認定</b>  3月15日に八戸せんべい汁研究所が、おもてなしアカデミーを開いた。2012年から実施しており、今回が4回目。これまでには飲食店関係者のみを対象としていたが、今回から宿泊や交通関係者にも広げた。参加者は約4時間かけて、食文化としての八戸せんべい汁の歴史やボーイングラングリを通じたまちおこし活動について座学で学んだほか、テーマソング「好きだDear!八戸せんべい汁」の歌と踊りを練習。実技試験と筆記試験を突破した38人を「八戸せんべい汁おもてなしマイスター」に認定した。</p> <p><b>ネットショップ大賞 「日本酒ショップぐるみや」が全国銘店賞受賞!</b></p>
20	<p>八戸市旭ヶ丘の「日本酒ショップぐるみや」が、ネット通販の総合支援サービス会社「Eストアー」(東京)が主催する「ネットショップ大賞2014」で「全国銘店賞」に選ばれた。ぐるみやでは、青森の日本酒を中心に、ワインやリキュールなど千種類以上をネット販売。今回、扱う商品の豊富さや、ページ上での詳しい商品説明、即日発送が評価された。ネットショップ大賞は、Eストアーを利用する約1万9千店の中から各賞を選考。全国銘店賞には各都道府県から1店舗ずつ選ばれた。</p>
21	<p><b>16年ぶりに大相撲夏巡業 「八戸場所」開催へ</b>  大相撲夏巡業の「八戸場所」が8月19日、八戸市体育館で開かれることが決まった。八戸市での開催は1999年8月以来、16年ぶり。幕内力士の取組を間近で観戦できる貴重な機会、主催する「八戸場所実行委員会」会長の荒瀬潔デリーー東北新聞社社長は「地域を挙げて準備を進め、必ず成功させる」と意気込んでいる。入場券は5月中旬から販売予定。総座席数は約3千席で、料金はたまり席1万3千円から、升席1人1万円から、いす席6千円からなどとなっている。</p> <p><b>富士フィルムフォトコンテスト 八戸市の前田利久さんが最高位!</b></p>
22	<p>日本最大級の写真公募展・第54回「富士フィルムフォトコンテスト」で、八戸市の前田利久さんが最高位の「フジコン大賞」を獲得した。作品は種差海岸の小舟渡付近で撮影した「大波襲来」(自由写真部門)。コンテストには全国から3万5181点の応募があり、2011年に創設された同大賞は、4部門のうち「自由写真」「ネイチャーフォト」の主要2部門からトップを選出。愛好家憧れの栄誉で、青森県関係では初の受賞となる。</p> 
23	<p><b>日専連全国児童版画コンクール 中居林小の中居林妃奈さんが最高賞!</b>  第24回日専連全国児童版画コンクールで、八戸市立中居林小3年の中居林妃奈さんが、最高賞に当たる文部科学大臣奨励賞に輝いた。中居林さんの作品は、学習発表会での合奏に向け、木琴の練習に懸命に励む自分の姿を版画で表現した「木きん がんばるぞ!」。版画初挑戦での快挙に、中居林さんは「びびっくりしただけうれしい」と喜んでいいる。審査では「デフォルメされた画面が印象深く、木琴の音が聞こえてくるような魅力ある作品」と評価され、全国5万2366点の作品の中から最高賞に選ばれた。</p> 
24	<p><b>ヴァンラーレ八戸 ホーム開幕戦を2-0で勝利!</b>  日本フットボールリーグ(JFL)の第1ステージ第4節・ヴァンラーレ八戸ーヴェルスパ大分が3月29日、八戸市東運動公園陸上競技場で行われた。ヴァンラーレは前半、自陣が風下にあったことも影響し、押し込まれる苦しい展開となった。しかし、後半開始からMF新井山祥智を投入、相手陣内で積極的にボールを奪い、素早い展開で主導権を握り2-0で勝利した。ホーム開幕戦を白星で飾った会場には1219人の観客が詰め掛け、懸命にブーイングを送った。</p>

No.

八戸前沖さば 種類や脂の乗りの選別技術開発へ

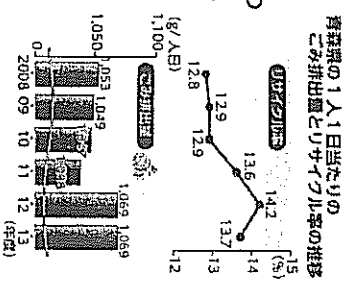
八戸港で秋口以降に水揚げされる「八戸前沖さば」のブランドカ向上を図るため、青森県は2015年度から、個体ごとにサバの種類や粗脂肪分を選別できる技術の開発に着手する。2017年度までの3年間で実用化を目指す。品質のばらつきをなくすとともに、特に脂の乗ったサバは“プレミアム化”し、さらに付加価値を高めて売り込むことも可能になると期待されている。



25

1人1日当たりのごみ排出量 青森県7ースト2位

2013年度の青森県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量は前年度と同じ1069グラムで、2年連続で全国7ースト2位になった。最下位クワスに低迷している要因として、県人口の減少により、1人当たりの排出量が増加しているのに加え、津軽地方を中心に台風による災害ごみが増加したほか、14年4月の消費税増税を前にして、家庭で家電製品の買い替えが進んだことなどが影響したとみられる。県は15年度に広報活動や衣類のリサイクルを強化する方針で、県民一丸となって全国下位からの脱却を目指す。

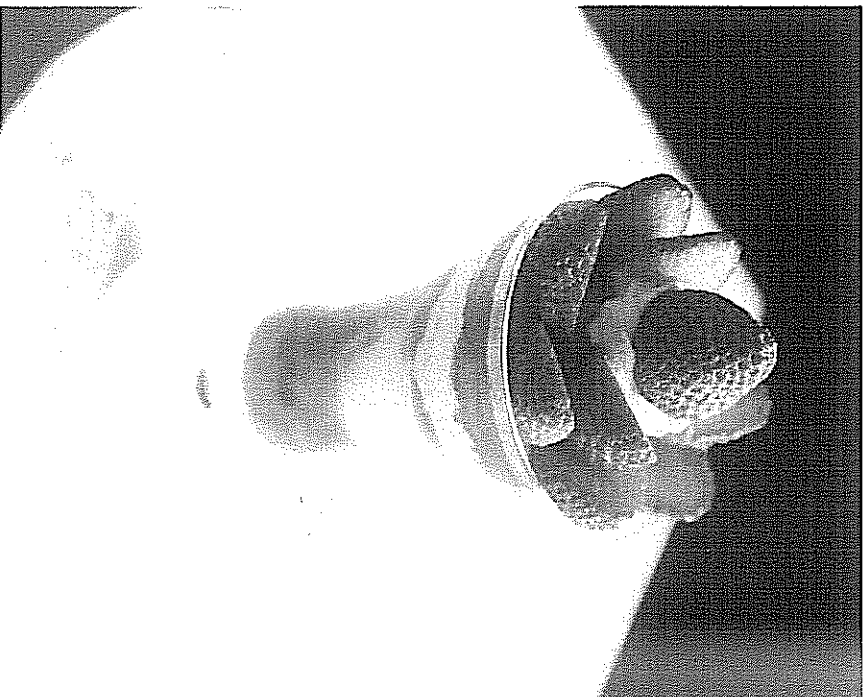


26

EST. 1902  
SHISEIDO PARLOUR  
GINZATOKYO

## 資生堂パーラー 銀座本店 サロン・ド・カフェ 「青森県八戸市産 さちのかのスペシャルストロベリーパフェ」登場

<2015年4月14日(火)～5月31日(日)>



資生堂パーラーは、2015年が“100年一度のいちご年”であることちなみ、銀座本店 サロン・ド・カフェにて、定番のストロベリーパフェに加え、その時期、旬のこだわりの苺で作るストロベリーパフェをご用意しています。  
4月14日(火)からは“青森県八戸市産”の苺を使ったスペシャルストロベリーパフェが登場。今が食べごろの「さちのか」を、銀座本店 サロン・ド・カフェの自家製アイスクリームとともに、ぜひお楽しみください。

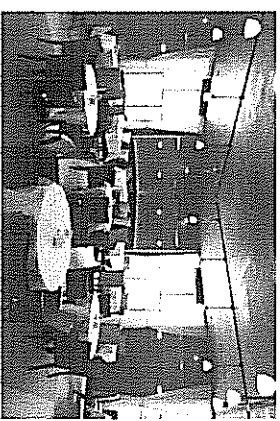
### 「青森県八戸市産 さちのかスペシャルストロベリーパフェ」 ¥2,280(税込) ※数量限定

香りが良く、甘みの強い「さちのか」をソースにも使用し、パフェに仕上げました。資生堂パーラー自家製アイスクリームと濃厚な味わいの苺は相性抜群です。

◇苺の入荷状況により内容が変わる場合がございます。

#### 資生堂パーラー 銀座本店 サロン・ド・カフェ

■ 住所 東京都中央区銀座 8-8-3 東京銀座資生堂ビル 3階  
■ 電話 03-5537-6231 (予約不可)  
■ 営業時間 火～土曜日 11:30～21:00 (L.O. 20:30)  
日曜日・祝日 11:30～20:00 (L.O. 19:30)  
月曜日 (祝日の場合は営業)  
■ 定休日  
■ URL <http://parlour.shiseido.co.jp/>



この件に関するお問い合わせは、資生堂パーラー 広報担当 小幡までお願いいたします。

TEL:03-3289-2099 [chie.kotsugaiz@to.shiseido.co.jp](mailto:chie.kotsugaiz@to.shiseido.co.jp)